

ベストクラス選定理由書

作成者：神田真実、摺石敏之、谷山安彦、小川聖雄、伊藤博之、中野友子

科目名称	教えと学びの哲学（昼間クラス）		
	（担当教員名： 大関達也 ）		
課程	：大学院（修士）	開講時期	： 後期
授業形態	：講義・演習	授業規模	： 30人以下
インタビュー対象教員名	大関達也 （実施日時：7月12日16:30～17:30； 実施場所： 総合研究棟小会議室 ）		
インタビュー対象受講者名	菊地康介、施姍、杜楊 （実施日時：7月7日11:00～12:00； 実施場所： 総合研究棟小会議室 ）		
選定理由	<p>授業担当教員と受講生へのインタビューから、それぞれ次のことが明らかになった。</p> <p><u>授業担当教員へのインタビューから</u></p> <p>本科目では、教えと学びに関する問題の本質について受講生に考えさせる、ということが意図されている。資料の内容に対する受講生同士の討論を通して、問題意識の喚起、各回の課題の理解、および、その課題に対するアプローチの仕方の考察が、クラス全体でなされている。</p> <p>担当教員は、受講生間でも討論がしやすく、かつ、現実に即した新鮮な課題と、適切な資料を選んでいる。そのために、日ごろから授業の改善を心掛けている。加えて、留学生がいる場合など、状況に合わせて授業内容を変更している。討論の時間は、受講生の様子にあわせて発問をする、少数派の意見を引き出すなどして討論を促しつつ、意見を整理し、授業目標に誘導する。その際、受講生の予備知識と疑問点を把握し、これらを踏まえて授業を展開している。</p> <p>全授業を通して、討論が大きな割合を占めている。さらに、後半の授業では、受講生は予めテキストを読み、発表をすることが求められる。従って、受講生の参画度は非常に高い。</p> <p>担当教員は、討論が進むようなより良い仕掛けを作ることを今後の課題としている。そして、当該科目に関する知識というよりも、現実に即した教育問題を考えた、という記憶が受講生に残ってほしいとの熱意をもって授業を行っている。</p> <p><u>受講生へのインタビューから</u></p> <p>受講生のインタビューを通じて、教員と学生が共に学びあう授業であることがよく理解できた。まず、教育哲学は難しい内容ではあるが、担当教員は平易な言葉で説明し、随時、読み物の資料を用意し、教員が与えたテーマを学生同士で議論し、意見交換する中で、自ら考えさせ、その過程を大切にしている。教員による一般的な講義形式ではなく、学生による能動的な活動を主としている。学生たちは、自らの意見を発表し、『学びの共同体』と言える。毎回のテーマも興味深い。また、授業では、十分な準備と自らの論を裏付ける能力を求められる厳しさがある。ただ、楽しい、面白いだけではなく、自らの考えを深め、また他者の考えを認め、尊重しながら学びを深めていく授業であり、受講生の中には、将来、担当教員から学んだ考えることや考え続けることの大切さを活かしていきたいと思う学生もいる。まさにベストクラスと言える。</p> <p>以上により、本科目をベストクラスに選定する。</p>		